人を、想う力。街を、想う力。

三菱地所

街の力を、地球の力に。

2015年10月1日

報道関係各位

三菱地所株式会社

「丸の内エコ弁プロジェクト」始動

日本初、デベロッパー主導で街単位でのリサイクル容器を使った弁当販売・容器回収の取り組みへ向けた実証実験開始

三菱地所株式会社は、本日10月1日より丸の内の飲食店舗において販売される弁当にリサイクル容器を使用し、回収・リサイクルを行う「丸の内エコ弁プロジェクト」を開始します。デベロッパーとして複数のテナント店舗と連携し、共同でリサイクル容器を使用してリサイクルを行う取り組みは日本初となります。今後、2か月間にわたって、丸の内エリアのビル5棟で、弁当容器回収の取り組みへ向けた実証実験を行ってまいります。

丸の内エリアで1年間に販売されている弁当は約260万個※1にも及びます。本プロジェクトは、当社がデベロッパーとして街の環境負荷を軽減するための取り組みとして、テナント店舗・エリア就業者と一体となって実施するものです。

本プロジェクトでは、表面に薄いフィルムが熱融着で張り付けてある弁当容器を使用します。弁当購入者は食後にフィルムをはがし、フィルム・フタを廃棄、容器本体を各ビルに設置された回収ボックスに返却することで、簡単にリサイクル活動に参加できます。また、リサイクル材料となる使用済み容器を、溶解・再利用する前の洗浄が不要な状態で回収することができるので、よりリサイクルがしやすくなります。また、容器自体も70%という高いリサイクル原料率を誇っています。

本取り組みで弁当容器が1つリサイクル容器に切り替わり回収される毎に、従来の通り容器を廃棄・新規に製造するのに比較して約120g※2のCO_2発生を削減することができます。当社では、本取り組みを当社の基幹商業施設であり、地下フロアで多くの弁当が販売されている丸ビルほか2施設でスタートさせ、今後エリアの他ビルにも広げることも検討していきます。

このプロジェクトは、環境省「平成27年度容器包装における環境負荷低減効果等モデル実証事業の実施等業務」の協力を得て実施します。

※1, 2 当社調べ

■「丸の内エコ弁プロジェクト」によるリサイクル容器採用のメリット：

①ゴミの削減

ゴミがはがしたフィルムとフタだけになるので、ゴミの量が約67%削減される。

②水資源の節約

弁当容器を洗わずにリサイクルできるので、水の節約と水質汚染を軽減できる。

③天然資源の保全

簡単にリサイクルに参加できることで、回収量が増加。また、再生原料を使用することで資源を節約。

三菱地所は、グループの基本使命「地球環境への配慮」に基づき、事業活動を通じて持続的なまちづくりを行うことで、今後も、社会に貢献してまいります。

▲リサイクル弁当容器

■本プロジェクトの仕組み

・テナント店舗は、表面の薄いフィルムをはがしてリサイクルできる「P&P リ・リパック容器」を購入し、提供される弁当の容器に使用し販売。（実証実験は丸ビル、三菱ビル、岸本ビルの計 16 店舗で実施）

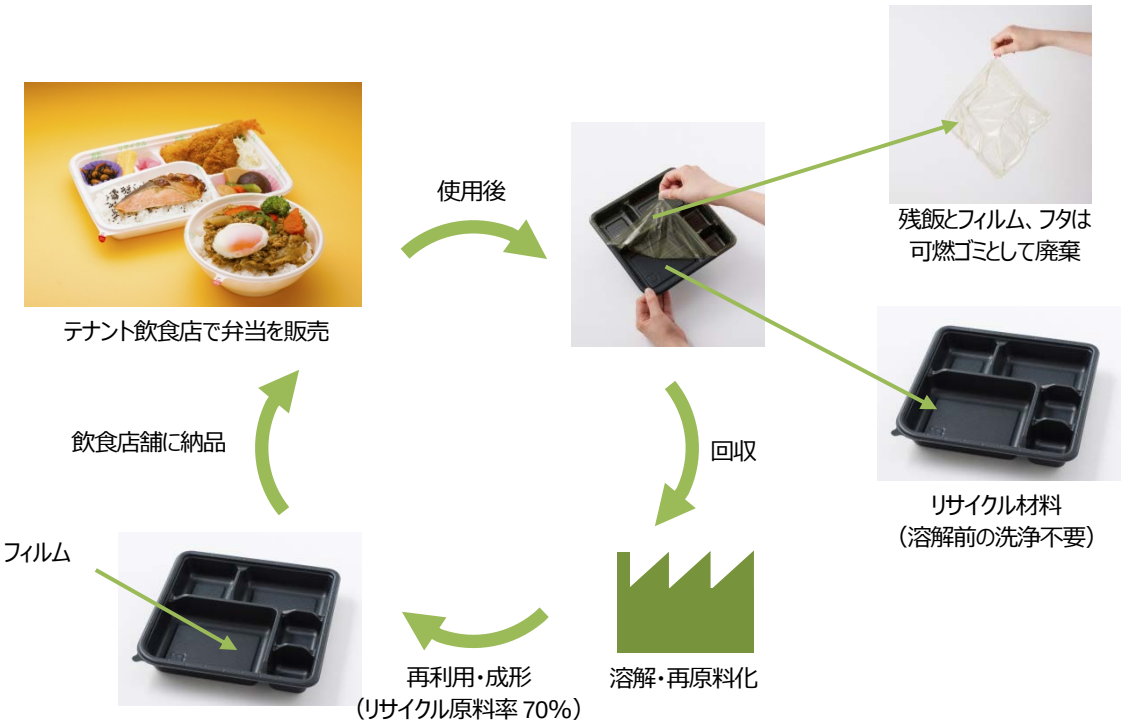
・購入者は食後、弁当のフィルムをはがし、エリアに複数設置された回収ボックスに容器を返却。
（現時点では丸ビル、三菱ビル、丸の内二丁目ビル、丸の内仲通りビル、岸本ビルに約 90 箇所設置。）

・回収された容器は、溶解施設で溶解処理・再原料化。

・再原料化された容器は、リサイクル容器製造業者で再び容器として製造。

・三菱地所グループは、全体スキームの構築、弁当容器回収ボックスの設置、テナント店舗・就業者への理解促進・協力呼びかけによる導入店舗数・回収率の向上を実施します。

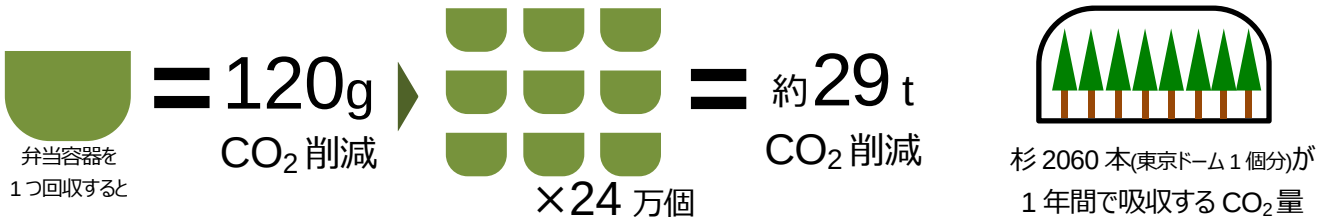
・これまでも、大学生協などで個別に本トレイの採用・リサイクルの事例はありましたが、デベロッパー主導で複数店舗共同で街ぐるみでリサイクル容器を採用するのは日本で初めての取り組みです。



▲事業スキーム図

■本プロジェクトの効果：

・当社では、これまでも弁当容器を含め、各種リサイクルに取り組んでいますが、よりレベルの高い再利用の検討を行ってきました。

・本プロジェクトにより、①フィルムとフタのみが廃棄されるため、容器の大半をリサイクルできること、②容器の 70%がリサイクル素材でできていることから、リサイクル容器 1 つあたり約 120g の CO_2 削減が可能となります。

・テナント店舗にとっても、本リサイクル容器への切り替えにより、容器コストが削減されることが期待され、経済性と環境対応を両立することができます。